３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.454-455

知足の森では境界線確定作業が続いています

【定例活動報告】知足の森

今月の活動は第１日曜日に作業できなかったので、９日に振替えて作業しました。先月に続いて境界線を確定するためにポケットコンパスを使い斜面を登っての作業です。先月よりも尾根に近づいてきたため、斜面が急になってきていて、立つのもやっとの角度でした。先月の調査でおおよその距離感がつかめたこともあり、今回の到達地点は前回の３倍の距離、というよりもゴールの尾根としました。この境界線確定の作業は私が勤務する中学の生徒が中心となっておこなっています。総合的な学習の時間の講座のひとつ、「実際に取り組む環境問題」というテーマです。実際に森林整備が進まず、そして地主さん自身も自身の所有林が把握できず結局整備されてこなかった森をどうしますか、という課題に対して、まずは区画を把握しよう、というのがこのチームの目的です。先月のチームの生徒がほぼ目処をつけてくれているので、今回のチームはその続きです。おお

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。

まかな原理は勉強してきているので、現地では実際にポケットコンパスをいじりながら、測量を進めました。この作業は意外に目標地点でポールを持つ生徒が重要な役割を担っていて、コンパスの視界に入るよう、うまく動いていかないと、距離をかせげません。今回はポール係が前回と同じ生徒で機敏に動いてくれる生徒でもあったので、ポケットコンパスをのぞいている生徒の指示にしっかり応えてくれていました。そして何よりも重要なのは、長い時間手入れがされていないので、目標地点のポールまでの間に多くの雑木が邪魔をしています。これらをざっと刈るというのは作業に慣れている地球環境部とそのOB。このチームワークにより、目標の３分の２まではあっという間に到着。残りは立つのもやっとの斜面なので、各自で草を刈りながら、方位だけ確認しながら尾根に到着。時間は１４時を過ぎていましたが、全員で記念撮影。達成感のある一日になりました。また、参加してくれた生徒の感想もご紹介したいと思います。

宮村　連理（本会、副理事長）

今回の活動は森の中の「測量」を行いました。　私は実際に方位や距離を調べ、そこから区間を特定するという作業を中心に行いました。前回参加した活動では、木の伐採や植生調査など、常に頭を使いながらその時々にやらなければいけないことなどを考えながら行動していました。　今回の作業は機械の操作こそ単純でしたが、いざ測ってみると木や草がジャマだったり、うまく機械が水平にならなかったりと、１回の測量でもすべて同じということはありませんでした。また、山の斜面をのぼりおりする時は、バランスが取れそうな場所を探しながら歩いたり、周りの木やツルにトゲがないかを確認しながら歩いたりと、いつも以上に注意深く周りを見る事が、自分の命や体を守ることにつながるということを、感じました。

特に自然の中で活動するときは、普段意識しない「注意力」が必要だと身をもって実感しました。次回の活動では、今回学んだ知識や注意力などを意識しながら行っていきたいと思います。

永田　桃夏（東京学芸大学附属小金井中学校２年）

知足の森から

昼食抜き、ぶっ続けで測量しました。目的地の尾根にて集合写真を撮影。

今回の課題研究は人生初の測量をした。測量と聞くと道路で作業をしているというイメージがあったが、今回は自分が実際に山の中に入り本格的な測量をした。事前に本などで予習はしていたが、実際に森に入ってみると足場も悪く予想以上に大変な作業であることが分かった。今回は、あいまいになっている森の境界線を見つけるというテーマで活動していた。

測量という作業の中でも測量器と、目印になる杭を打つために置くポールを上手に合わせるのが難しかった。最初は悪戦苦闘していたが何回か行うことで目安の十字の印も見えるようになり作業をスムーズに行えるようになったと思う。普段人が何十年も手をつけていない森の中で活動することはないので特別な経験になった。家に帰ってどっと疲れがでたので身体をたくさん動かせたのだと思う。今回の測量をもとにテーマのまとめをしていきたい。次山を登るときは今までと違う目線で森をみられそうだ。

押木　七海（東京学芸大学附属小金井中学校２年）

【定例活動報告】小原本陣の森

10月になり、気候はすっかり秋の様相になってきました。晴天の青空の下張り切って小原活動に出かけました。いつも川田浩さんが主導されていたので楽でしたが、改めて取りまとめの大変さを感じました。入山を整備する予定があった二藤君、斎藤君のForesTo Classの二人が風邪のため欠席するとの連絡から始まりました。ForestNovaの服部さん、五味君、望月君が来てくれましたので安堵したが、4人での小原活動は史上最少人数ではないか！と思ったところ、丸茂さんが嵐山に、宮村さんが午後から参加との情報

が入り何とか活動として体面が保てたスタートでした。午前中は長らく放置していた畑を見て、整地、収穫を目的に畑に向かいました。ゴーヤ・獅子唐・二十日大根・エンドウ・ミニトマト・ピーマン・ナスが収穫できた。放置するとイノシシや猿が来るので近所の畑に迷惑が掛かるので緊急課題である。

昼食の後、嵐山に向かい、乾燥小屋の屋根貼りで野路板を貼り終え、防水シート貼りまで済ませれば何とか冬を越せるので、皆で力を合わせて頑張ったお陰で、全て予定通りに終了することが出来た。達成感を存分に味わうことができた。仕上げが完了するまで1時間位の残業になったことをお詫びして、今日の活動を終了しました。お疲れ様！

小林照夫（本会、理事）

【定例活動報告】
相模湖・嵐山の森

先週に続き朝から雨の活動日でした。森林整備班は先々週完成した乾燥小屋が広く雨の中でも20～30人位収容力のある小屋に目をつけておりましたので今日の様な天気にこそ利用価値があると思い、初めて朝礼を屋根の下でやり、準備体操も軽々済ませることができることを証明できた。

そこで、徐々に森林内に玉切りされうず高く積まれている材を乾燥小屋に運ぶ作業を当面の活動にすべく、その作業手順や効率性をモジュール化するため、今日はできるだけ皆さんに手伝って頂く中で作戦を考える初日と位置づけたいと思い、午前中はほとんどの方にお手伝いをして頂き、20本以上の材を乾燥小屋に運び入れることができた。中学生の皆さんも全員で力を合わせて、一生懸命運んで頂けました。ありがとうございました。如何に材木が重くて運びつらいものかを体で感じられたのではないかと思います。学生の皆さんは、二藤さんの指導で乾燥小屋の空いたスペースでアラスカンを使い板材にし「まな板」を沢山作って持ち帰られました。大人たちは、昼食を兼ねた運営会議を「かどや」の二階を借り充実したミーティングを行うことができた。新執行部体制の中から、次世代の緑のダム構想が次々と生まれてくる予感がした活動日でした。（報告：小林　照夫）

お花畑班の参加者は石原さん、岡田さん、瀧澤さん、丸茂の４名。雨天、午前10時作業開始。9月、10月の活動日として２回連続の雨は、18年間の活動の中でも初めての経験だ。雨天の中、花畑班は今後の活動方針について現場を見ながら話し合った。

まず、モッコウバラのアーチはなるべく成長に任せ

２回連続の雨、、、

雨ではありましたが活動班ごとに雨だが、という活動を行いました

た雄大なアーチに仕上げようと話し合った。次回にアーチを支えている柱の補修と伸びたツルの整肢を行う予定だ。棚田風花畑にはチュウリップ、スイセンなどの球根類をもっとたくさん植える事にした。

バラ園はノイバラ、山椒バラなどが里山に合う野生バラとして立派に成長してきている。車道沿いの花畑に植えたバラが、雑草に負けそうなのでこちらのバラ園に植え替えることにした。企業庁がダム湖に流れ着いた立木を引き上げ、チップにして処理しているが、毎年4月中旬にチップを無料で分けてくれるので、花畑の雑草除けとして軽トラで運んで園路に敷いている。来年も園路のマルチング材として、このチップを大量に運んで使うことを決めた。バラの園に続く斜面地は、月1回の手入れ活動で収穫できるような野菜畑としての活用を確認した。前回はヤーコンを石井さんが植えてくれ収穫できた。石井さんが毎回持参してくれる野菜類、根菜類などを育てているが、現在ウコンが大きな葉っぱを付けていた。花畑の見事に実ったカキを石井さんも手伝ってくれ、沢山収穫して参加者に持ち帰っていただいた。雨が止まなかったので花畑班は午前中で作業を終了し、「かどやさん」で昼食を食べ散会した。（報告：丸茂　喬）

ForestNova☆嵐山活動報告。雨が降っていた。午前中いっぱいくらいかけて切ってあった木から丸太を作り乾燥小屋に運ぶ作業をした。雨でぬれていたため地面はぬかるんでいてうまく歩けない。丸太は滑って持ちにくかった。丸太を運ぶ道のりが実際よりも長く感じられた。防水加工がしてある靴はその効果を失っていた。さらに悪いことに、早く終わることを想定していたため自分は雨具を持ってこなかった。Forest Nova☆男メンバーはほとんど無言で作業した（これは別に珍しいことではない）。丸太を運び終わったら全身ずぶ濡れだった。丸太を運んだ後丸太の製材をした。チェーンソーを丸太に平行に滑らせるようにいれて板を作る。丸太一つのみの加工であるため早く終わるはずだった。だがチェーンソーの歯を固定する板に挟んだり、板の厚みを間違えるといったハプニングが連続した。作業が終わるころにはずぶ濡れだった上着が乾いてしまっているくらいだった。最後に残った板の切れ端を頂いた。Forest Nova☆の看板をつくれるじゃないかということだったがメンバーの反応は微妙だった（これもあまり珍しいことではない。）。「今日は早く終わるだろうからかえってからプールで泳ぐか。」と考えていた自分は甘かったのだろうか。この日は帰ってからほとんど何もせずに寝てしまった。Forest Nova☆が自分達だけで板を作れるようになるのかは来月以降の活動報告でお知らせします。（報告：五味　輝史）

地球環境部も雨で予定していた活動は断念。しかし、みなさまの計らいで完成した丸太仮置き場で製材ができそうだ、しかも二藤さんも参加してくださっている。これはマイチェーンソー、ハスクバーナ440eの出力ではできない幅の製材ができる、と計画をあっさり変更し、若者総出で丸太を森から搬出、製材とあいなった。雨のなか、丸太を運ぶ。想像するだけであれであるが、ここ数ヶ月で参加しはじめた本校生徒がどう感じたか、大変興味深い。教科書には書いていない、学習塾では教えてもらえないこの活動の意味を理解できるのだろうか、なぜ、雨のなか、びしょ濡れ、泥だらけ、さらに重い丸太を運ぶことに意義を見いだせるか。感想をご紹介したい。

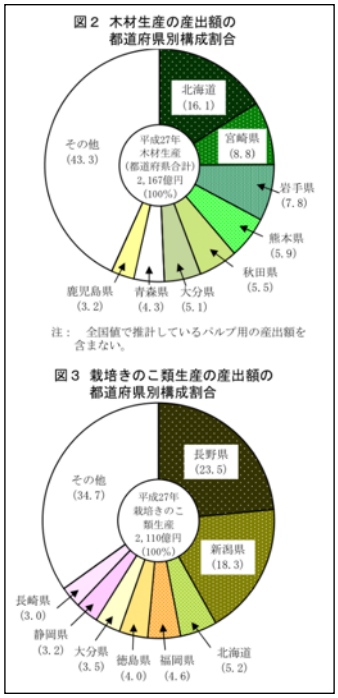
今回は、雨が降っていたため、普段の活動とは少し違った。まず、いままで切った木を山から運んでくるという作業だ。はじめに運んだ木は切られてから時間が経っていたため、軽く感じた。しかし、二本目に運んだ木は一本目と比べたものにならないほど重かった。時間が経った木と経っていない木で水分の量に差が出てあまりにも違うので驚いた。また、木を運ぶ時の工夫についても学ぶことができた。僕たちは前に二人、後ろに二人で木を持ち上げて運んでいた。しかし、それではさすがに大きい木を運ぶのが大変だったため、木の大きい方を前にし、紐も前のほうにひっかけて引きずるかたちで運んだ。それ以外にも、長い紐と短い紐の二つをうまく組み合わせて運んだりもした。木を運んだあとは、それらの木を製材した。丸太を板状にするため、水平器を使って木を水平に置き、チェーンソーを横にして切った。小道具などをうまく使い、きれいな板状の木にすることができていて自分でもすごいと思った。いつものように木を切り倒すのではなく運搬、製材ができたのでよかった。森での活動は、チェーンソーやトラックなどの機械に頼ってばかりいると思ったが力仕事な部分もたくさんあり、やりがいを感じた。（２年生男子）

といった具合であった。製材した板は後乾燥のため、本校理科室に預かっている。後日談はあるが、本人たちの名誉のために割愛させていただく。今後の活躍、そして感じてくれたことを「実感としてもってもらえる」よう今後も参加を促していきたい。（報告：宮村　連理）

【若者の森づくり】ForestClass

北の大地から

ForesTo Classの滝澤です。昨年の春より社会人団体としてForest Nova ☆OBOGが集まり活動を続けています。自分は現在4月より北海道の釧路へ赴任しております。北海道に来て感じたことは、杉ヒノキといった人工林が少なく、林業の規模も大きいこと。木材生産の産出額の都道府県別構成割合は北海道が1番です。今の我々の活動の延長線上では、規模の点で通用しないと思いました。



政府統計より引用
www.e-stat.go.jp

水産関係の仕事に従事している人間として、林業と水産業は同じ一次残業の過渡期を向かえていると思います。それは世界的に見て二つの産業は成り立っているのに、国内では衰退の一途を辿っている点です。国内市場では少子高齢化も相まって消費も減少しています。水産では年々水揚げが少なく、今期の北海道における秋鮭は昨年比の約67パーセント。昨年も同じ数字の減少幅で、10万トン以上続いていた水揚げが今期は5万トン前後になるという、戦後最小の水揚げとなっています。

また秋刀魚やするめいかといった大衆魚も大幅な水揚げ減を余儀なくされ、水産加工は今後衰退して行くと思われます。水産業界でみると少子高齢化や魚離れといった消費の落ち込み、水揚げ減による供給の落ち込みと双方のバランスが下がることで非常に厳しい市況となりそうです。しかし、日本のものづくりは世界に通用します。資源力は海外に劣りますが、冷凍技術による刺し身商材の供給を可能にし、今では寿司は世界のトレンドです。

林業業界においてはどうでしょうか？木材生産の場はあるもののそれを運用していく人とモノ、金といった資源がありません。制度はうまくいっているのでしょうか。しかし、日本の木材は価値があると認めてもらえる機会も増えています。国産材を使った住宅の需要も高まっています。ここをついた価値のある林業の仕組みや商品づくりといった点を見出し、新たなニーズを発掘していくことが我々ForesTo Classの活動の生きる道だと考えています。より付加価値のある木材活用を考えていかなければ、世界規模で俯瞰した時に数、量で太刀打ちできず、無意味になってしまいます。森と暮らす。活動にはなかなか参加できませんが、今後も緑のダムの活動（運動）とともに考えていきたいと思います。

滝澤　康至（Forest Class）

【若者の森づくり】Forest Nova

10月21日（土）と22日（日）に、麻布大学の大学祭が開催されました。以前本陣焼きで出展したときのメンバーは残っていないので、ほぼ初体験で、手探りで準備を進めてきました。

今回大学祭に出ようと思ったのは、学内イベントに参加することでForestNovaの大学内での知名度をあげて、新しいメンバーの獲得につなげていきたいと考えたからです。肉まんとあんまんを売る模擬店として出展しましたが、活動紹介のポスターを作ったり、嵐山の間伐材で作ったマグネットを販売したりすることで、お客さんに私たちのことを伝えられるのではないかと思いました。木を切りだし、穴をあけ、最後にヤスリをかけるという一連の流れで各自得意な作業を分担して、30個ほどの木工製品を作ることができました。

しかし大学祭の当日ちょうど台風21号に直撃されてしまい、さらに2日目は正午で模擬店が打ち切りとなり、大量の売れ残りが出てしまいました。当然天候の影響もありますが私は他に、肉まん・あんまんが若者にうけるメニューではなかったということや、人数が少なすぎて大学祭についていくことで精一杯だったということも敗因だと思っています。それでも売れ残って赤字だったということを除けば特に大きな問題もなく大学祭を終えることができたので、これは様々なイベントを乗り越えてきた成果だと思います。それと同時にこれからも活動を継続しさらに組織としても発展させていくにはやはりメンバーを増やしていく必要があると感じたので、来春にむけて新入生の獲得に力をいれていきたいと思います。

服部　七星（Forest Nova）

【若者の森づくり】
地球環境部

１０月末から１１月にかけて、積み木イベントを行っています。まず東京学芸大学附属小金井中学校の学芸発表会では恒例のアンコールワット、さらに同大の小金井祭ではタージマハルと平等院鳳凰堂を製作しました。まだ積み木の扱いになれておらず、平等院の製作にはかなり手間取りましたが、無事に完成しました。詳細は来月号にてご報告いたします。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。